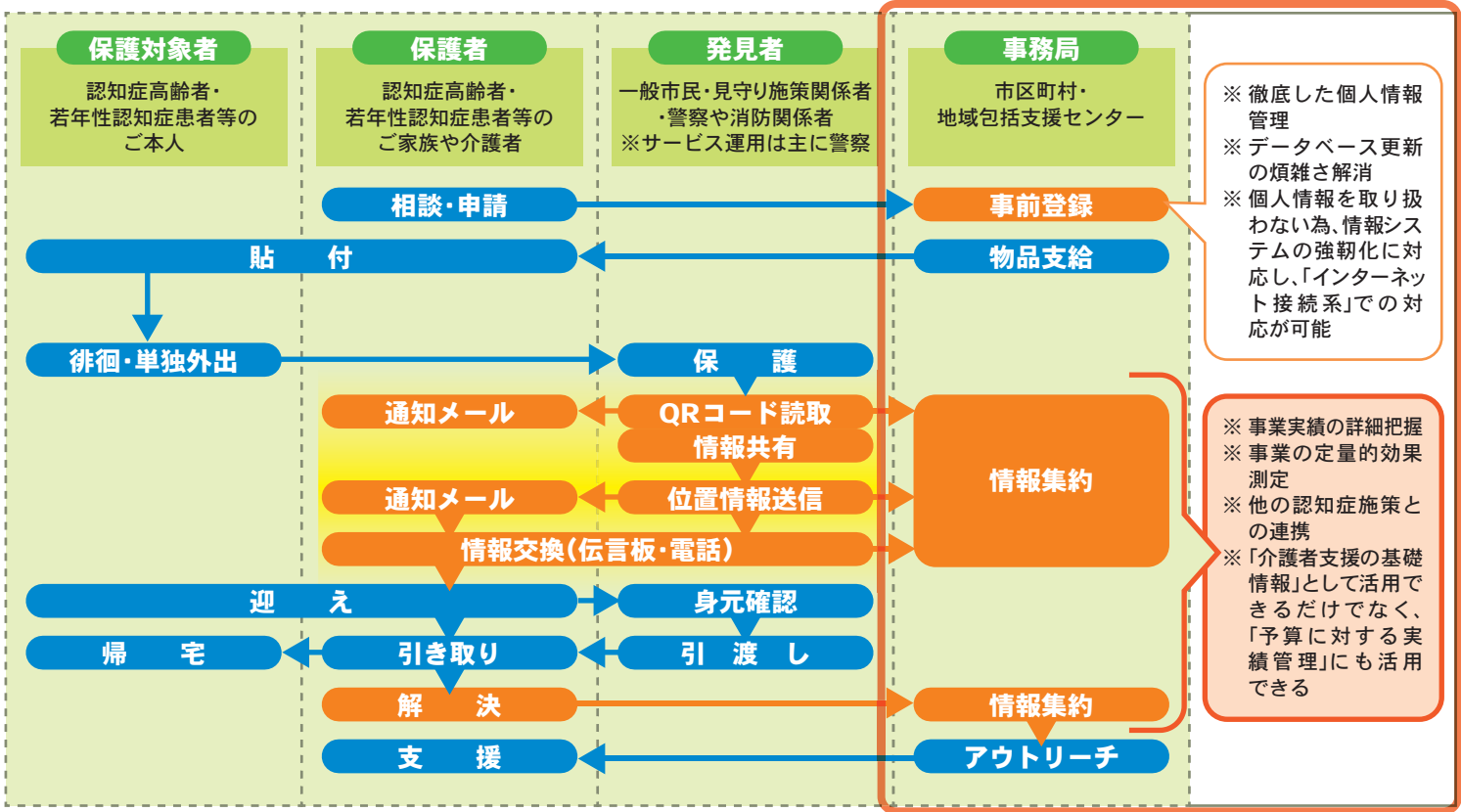


どこシル伝言板® 運用の流れ(事務局＝自治体モデル)



※詳細な資料はホームページ(<https://mirai-town.com/product/dokoshiru>)からダウンロードしていただけます。

**QRコード
ラベル・シール**

白色ラベル(耐洗ラベル)

- アイロンで衣服などに貼付して使用。
- 東レ製「トレシー®」を使用。
- 家庭用の洗濯で約200回(約2年程度)の耐久性。




黄色シール(蓄光シール)

- 蓄光素材。視認性良く暗所でも目立ちます。
- 最低1年以上継続使用可能(破損等ない場合)
- シールを貼付後、透明カバーシールで保護します(樹脂製)。




貼付例


どこシル伝言板® 導入に要する費用

※「基本料金(初回発注時のみ)+導入費」のみでシステム導入が可能。
月額追加費用の発生もありません。

基本料金 35,000円
(税込38,500円)
(版作成・初期導入支援・初回送料)

+

一人当たり導入費

ラベル・シール
購入費

伝言板システム・
管理システム利用料

× 購入人数

※基本料金は初回発注時のみ課金
※2回目発注以降は導入費のみ

※導入費にシステム利用に要する費用は含まれています

※詳細はお見積りにて
ご説明いたします
※ほとんどの自治体で
消耗品としてご導入
いただいています

■会社概要

会 社 名 東邦ホールディングス株式会社
 資 本 金 106億49百万円
 株 式 東京証券取引所 市場第一部(証券コード:8129)
 代 表 者 代表取締役社長 加藤 勝哉

全ては健康を願う人々のために
 
共創未来

設 立 昭和23(1948)年9月
 本 社 所 在 地 東京都世田谷区代沢5-2-1
 丸の内オフィス 東京都千代田区丸の内1-9-2グラントウキョウサウスタワー12F

<https://mirai-town.com>
 ↑サイト内で**メディア掲載情報**発信中！

認知症徘徊対策サービスのご案内

認知症高齢者等 保護情報共有サービス



衣服等に貼ったQRコードを発見者が携帯電話やスマートフォンで読み取ると伝言板を表示。現在位置情報等を入力すると、ご家族(事前登録の最大3名)に瞬時にメールが送信されます!双方で個人情報(電話番号や住所等)を明かさずに、行政や警察を介すことなく、迅速に迎えに行くことができます。事前準備は簡単な情報登録と衣服へのラベル貼付のみ。すぐサービスを開始できます。

**手順がわかる
 YouTube 動画**

QRコードを読みこむと
 再生できます



24時間 365日
 素早く連絡が取れる！

こんなお悩みありませんか？

- ✓ 閉庁時・時間外の問合せに手間どっている
- ✓ GPSだけでは不足。新しいサービスを検討しないと...
- ✓ 警察やSOSネットワークとうまく連携をとりたい
- ✓ 行方不明の方かな？声かけを後押しする何かが欲しい
- ✓ 新しいサービスを導入したいが、業務は増やせない
- ✓ ご本人や介護者の負担を軽減したい...
- ✓ 個人情報管理や予算執行の実績管理が大変


東邦ホールディングス株式会社

〒100-6613 東京都千代田区丸の内1-9-2
 グラントウキョウサウスタワー12F

mirai-town@so.tohoyk.co.jp

TEL.03-6838-2834 [担当:日高・植田]

受付：平日 8:30～17:00(土日祝日を除く)
 FAX.03-6838-2903



発見者⇄保護者、警察⇄保護者 自治体は全ての情報共有が可能



松戸市 福祉長寿部
高齢者支援課
保健師 吉田 順子様

松戸市の昨年1年間の認知症徘徊件数は44件。自治体へ警察より防犯行政用無線を利用した探索放送の依頼があった件数ですが、警察等の関係機関から、保護をしているなどによる身元照会に関する問い合わせは連日のように発生しています。地域住民による声かけなどの協力体制も充実してきていますが、遠方へ行ってしまうケースもあり、徘徊高齢者の安全確保と介護者の負担軽減につながる対策は重層的に必要な状況です。また、高齢者の保護後、身元判

明から家族と連絡が取れるまでに要する時間の短縮も大きな課題です。「どこシル伝言板」は、発見者と保護者間で伝言板を使用して行われたやりとり、また、警察が保護して行われた保護者との伝言板のやりとり、どちらの場合でも、自治体はその対応状況を把握できることに有益性を感じています。昨今、QRコードを利用したラベルシールは他にも多くあります。「どこシル伝言板」は、ご本人の情報(身体的な情報から保護時に注意すべきこと、声のかけ方等)が発見者や保護した方に瞬時に伝わる点が、他のサービスにはない点だと思います。発見、保護後にどう対処すると良いかわかることは、発見した方、保護した方、そしてご本人にとっても安心を得ることができ、メリットが大きいと思います。

千葉県
松戸市

自治体データ

自治体名:千葉県松戸市	人口:492,787人
65歳以上人口:122,698人	高齢化率:24.90%
認知症高齢者数:9,354人(認知症自立度Ⅱb以上)	
認知症徘徊件数:44件/年(防災行政無線放送を利用した探索放送の依頼数)	
現行の認知症徘徊対策:探索機器(GPS)	

個人情報を使用しません

個人を特定する固有情報を使用しない為、個人情報漏洩リスクを低減。導入自治体においては情報システムの強靱化にも対応し、「インターネット接続系」での運用が可能です。

家族にスピーディに連絡できる

発見者によるQRコードの読み取り、現在位置情報の送信やご本人の状況の入力があれば、瞬時にご家族(事前登録の最大3名)へメールが送信されます。

閉庁時の対応、負担軽減が課題。 警察⇄保護者で早期解決！

日高市 健康推進部
長寿いきがい課



課長 大沢 宗明様



主査 山口 英幸様

日高市では、認知症による徘徊行方不明の事例は実態として少なく、現在ほとんどありません。しかし、高齢化率が30%を超えたので、対策を本格化しなければならなと感じていました。GPSは導入してはいますが、やはりGPSを持たず外出してしまうケースも多く、近隣の自治体で類似のサービスが導入されたことをきっかけに、他のサービスへの検討を進めました。

「どこシル伝言板」の読み取り→自治体へ連絡」といった自治体を仲介する方法以外を探していたところ、「どこシル伝言板」を知りました。警察においても時間短縮が見込め、個人情報照会することなく解決できることがどこシル伝言板の魅力。個人情報報告を公開せずやりとりを進めることができる点も安心できました。日中や夕方以降、徘徊が発生した場合、職員不在で対応に時間がかかります。警察での保護後は、自治体で早急に対応を引き継がねばなりません。身元を確認し、病院を探したり、生活保護担当と連絡を取るなど、ご家族の元へ帰るまでの時間と自治体の負担を考えると、仲介なく解決できることは非常に有益です。警察で保護となった場合でも、QRコードを読めば警察とご家族間で連絡がとれます。ご本人の体力的、精神的な負担の面でかなりの負担軽減になると思います。

埼玉県
日高市

自治体データ

自治体名:埼玉県日高市	人口:56,497人
65歳以上人口:17,150人	高齢化率:30.36%
認知症高齢者数:介護認定者数の内、約400人と推測	
認知症徘徊件数:ほぼなし	
現行の認知症徘徊対策:探索機器(GPS)	

ご本人への声かけをスムーズに

ラベルやシールにはQRコード・識別番号・自治体名とロゴマークを記載することで、対象者だとわかり、SOSネットワークで声かけのきっかけとてもらいやすくなります。越境の場合にも有効です。

重大事故を未然に防ぐ！実績に基づく介護者支援

事務局(自治体で担当部門)は本サービスの利用情報(登録内容・伝言板のやり取り等)を集約でき、実績に基づいて介護者を支援するための相談介入が可能になります。

トータルで全部含まれている それが「どこシル伝言板®」の魅力



白岡市 健康福祉部
高齢介護課 地域支援担当
社会福祉士 樋熊 康司様

直近1年間では8件(自治体へ連絡があった件数)の行方不明者が発生。すべて近隣で発見、保護され、早めの対応がとれていました。しかし、土日や夜間に行方不明者が発生すると、どうしても対応が遅れるので、そのタイムラグの解消が課題でした。

今回、導入のきっかけとなったのは、他市で靴に貼るシールが導入された記事を読んだことでした。身元不明者の増加に伴い、他県などの導入事例について調べていました。「どこシル伝言板」であれば、ご家族と連絡が取れ、GPSのように持ち歩かなくてもよく、服や持ち物に貼るシールは有効だと思いました。ランニングコストがかららず、初回の投資だけで済むところも導入に結びついた点です。番号から身元を照会するだけのシステムではなく、トータルで全部(身元判明→ご家族への引渡し後・個人情報開示はない・保護者への連絡・引渡し)含まれているところが「どこシル伝言板」の優位性ではないでしょうか。「番号のみの方がシンプルでいいのでは？」という意見もありましたが、番号も印字されているので、番号での連絡も可能、両方兼ねられることが評価できました。これから増えていくと思われる、認知症徘徊高齢者の問題解決に十分な効果を発揮できるツールだと思います。

埼玉県
白岡市

自治体データ

自治体名:埼玉県白岡市	人口:52,381人
65歳以上人口:13,590人	高齢化率:25.94%
認知症高齢者数:1,192人	
認知症徘徊件数:8件/年	
現行の認知症徘徊対策:探索機器(GPS)	

引き取りまでのご本人のストレス軽減

発見者はQRコードを読み取ると、医療・介護の観点に基づく、個別の対応方法がわかるため、ご本人のストレスを最小限にすることができ、安楽に過ごしていただくことができます。

業務負担を軽減する

身元照会などの対応業務がなくなります。また、本サービス導入により、新規事業導入時に発生しがちな、管理・運用などの付帯業務を大きく削減できます。

宮城県
石巻市

現在の施策を活かし、
機能を追加できました！

石巻市 健康部
介護保険課
保健師 大須 美津子様

自治体データ

自治体名:宮城県石巻市	人口:146,933人(平成29年5月末現在)
65歳以上人口:45,845人(平成29年5月末現在)	高齢化率:31.2%
認知症高齢者数:5,049人(平成26年9月末現在)	
認知症徘徊件数:SOSネットワーク登録数は平成28年度末現在64件	
現行の認知症徘徊対策:他の併用はなし	

秋田県
大館市

負担軽減！ダイレクトな
やり取りで時間短縮

大館市 福祉部 長寿課
高齢者福祉係
主査 浅利恭子様
(保健師)

自治体データ

自治体名:秋田県大館市	人口:74,110人
65歳以上人口:27,297人	高齢化率:36.8%
認知症高齢者数:4,383人 要介護認定者のうち、認知症高齢者日常生活自立度Ⅰ～Ⅲ	
認知症徘徊件数:10件ほど/年 警察→包括へ直接連絡の場合もあるため、実際にはこれ以上	
現行の認知症徘徊対策:他の併用はなし	

認知症による徘徊の課題が年々大きくなっている現状に市として何らかの対策が必要な段階でした。居場所を探知できる機械類は、本人が持ち歩かないと有効でないことや、費用面の負担が大きいこともネックとなっていました。同様の見守りシールが候補として挙がりましたが、個人情報の管理や外部への情報提供が厳しくなっている現状に対応できるサービスである「どこシル伝言板」の導入を検討することになりました。最大のメリットは、保護から引き渡しまでの時間が短縮されることにより、ご本人の負担が軽減されることです。個人情報の管理が不要で、警察や行政が積極的に介入しなくても、保護から引き渡しまでが可能であることは、徘徊による行方不明対策に少なからず効果をもたらすと思います。住民や関係機関に協力を求めることで、「自分たちの力で」という意識が浸透する手段のひとつが「どこシル伝言板」の導入であると思っています。

どこシル伝言板®を
導入した自治体に
聞いてみました！

